

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年 1月 13日

1. 職名・氏名 教授・風間 裕介

2. 学位 博士(生命科学)、専門分野 植物遺伝学、授与機関 東京大学、授与年 2006年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 生物学 II （2単位） 1年生 オムニバス講義（担当コマ数3コマ）
②内容・ねらい 生物学の諸領域のうち、植物の生殖と発生、生理、遺伝、生態、分類、進化に関わる基礎的な事項について概説する。講義は、それぞれ専門領域の近い教官が担当する。生物学 I に引き続き、生物資源学科2年次以降の専門科目を理解するために必須な基礎的知識や考え方を習得する。特に、生物学 II では、植物における生命現象を理解することと、生物間の相互関係に基づいて生態系のしくみを理解すること、生物進化のしくみについて基礎的知識と考え方を理解すること、地質学的な時間軸上で生物進化についての基礎的知識を習得すること、を目標とする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 単純な知識の羅列はできるだけ避け、ストーリー性を持たせた講義を展開した。具体的には、講義開始時に学生が興味を持つような問いを設定し、次いで、理解して欲しい内容を用いてその問いを明らかにした。真核生物の遺伝学において重要な現象である減数分裂については、イラストを各自が描いて覚えられるよう工夫した。毎回の講義の最後に、レポート用紙（ミニッツペーパー）を配り、その日の講義の感想や質問を書かせるようにした。毎回、学生の理解度を確認しながら進めることができた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 生物資源学概論 I （2単位） 1年生 オムニバス講義（担当コマ数1コマ）
② 内容・ねらい 大学での学びが将来どのように役に立つのかを概説し、人生における大学時代の学びの位置付けを明確化した上で、最新の研究トピックスを紹介することで、大学1年生の学びに対する目的意識を醸成し、学習意欲の向上を図った。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 先輩方が学会等で活躍している様子を紹介することで、福井県立大学での学びが全国に通用することを紹介した。また、今年度福井で開催した日本メンデル協会大会を紹介し、学会経験を促したところ、1年生10名が参加してくれた。レポートでは、「成人してからの学びがいかに大切かがわかった。」など、学びに対する意識が変わった学生のコメントが散見された。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 遺伝学 I （2単位） 2年生
②内容・ねらい 生物学全分野の基礎となる遺伝学について概説する。遺伝物質の本体である DNA と遺伝子、染色体との関係について明らかにし、原核生物および真核生物におけるゲノムの特徴、複製、遺伝的組換え、遺伝子の転写、翻訳について説明する。さらに遺伝子工学について概説し、最

後に遺伝学と社会について考察した。Ⅰ年次履修の生物学Ⅱにおける「遺伝学基礎」に引き続き、遺伝学について理解する。特に、近年発展の著しい分子遺伝学、ゲノム科学の観点から生物を理解する理論的能力を習得する。さらに、技術者が社会に負っている責任（技術者倫理）に関する理解を得る。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

毎回の講義の最後に、レポート用紙（ミニツツペーパー）を配り、「難しい」「もっと解説して欲しい」と要望があった内容については次の授業で復習するようにした。毎回講義の始めに、前回と今回の講義内容の位置づけを明確化し、ストーリーで覚えられるように工夫した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

生物資源学概論（2単位）2年生 オムニバス講義（担当コマ数1コマ）

②内容・ねらい

生物資源学科における卒業研究の何がどのように社会に生かされるのかを、社会人のコメント等を交えてわかりやすく解説した。学生が社会人として生活していくために当研究室が取り組んでいる教育内容を説明した。これにより、卒業研究に取り組む姿勢や考え方に関する理解を得ることをねらいとした。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

研究室で取り組んでいる基礎研究だけではなく、企業との共同研究や、国際共同研究、地域社会との共同研究の例を紹介し、学生が興味を持った事柄について主体的に取り組める環境を整備していることを紹介した。視聴後に Google form でアンケートをとり、別途レポートを課した。アンケートで寄せられた質問についてはレポート返却時に書面で回答した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

ゲノム生物学（2単位）3年生 オムニバス講義（担当コマ数12コマ）

②内容・ねらい

近年の技術革新が目覚ましいゲノム科学について、例えば、「変わりつつある遺伝子の定義」、「真核細胞の核内小器官とクロマチンの3D構造」、「エピジェネティクス」、「DNA修復機構とガン」、「シーケンス技術の革新と社会利用」などを、身近な例を交えながら解説した。2年生までの講義内容を復習しつつ、その知識を卒業研究に活用できるような考え方を身につけることを目標とした。少人数制だったので、学生たちに発言してもらい、理解度を把握しながら講義を進めた。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

少人数だったので、授業の途中に全員に質問しながらインタラクティブな授業を行った。学生の理解度が把握できてとてもやりやすい講義となった。講義を進める中で、同様の内容を取り扱った授業や実験実習の情報、を学生から聞きながら進めることで、学生たちのさらなる理解を深めることができた。授業に関連した最新研究のプレスリリースなどを例にとり、学生が最新の研究成果にアクセスする方法についても解説した。また、理研食品株式会社取締役の佐藤陽氏をゲストスピーカーとして招いて、産業で生かされる遺伝育種学について講義していた。

【ゲストスピーカー 1人】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

地域生物生産実習（1単位）2年生 オムニバス講義（担当コマ数1コマ）

②内容・ねらい

若狭湾エネルギー研究センターを見学し、講義で解説した遺伝学が、突然変異育種の実際の現場でどのように役立てられているかを学ぶ。また、職業人としての働き方を目の当たりにし、各自の将来像の構築に役立てる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 若狭湾エネルギー研究センターの担当の方と、丁寧に打ち合わせを行い、班を4つに分けて、講義と3箇所の見学コースを順繰りに行うことで、密を避け、学生達が質問しやすい環境を整えた。また、行きのバスの中で、「質問するコツ」についてレジュメを配布して抗議することで、学生からの自発的な質問を促した。その結果、複数の学生が自発的に質問していた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 生物学実験（1単位）1年生（担当コマ数2コマ）
②内容・ねらい 実験圃場でのトウモロコシの栽培を通じて、作物の形態、分類、同定、生育特性、収穫量の評価方法を学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学生1名ずつ、栽培スペースと担当する株を割り当て、草取りや施肥を各自が行うようにすることで、作物の栽培がいかにも大変かを体験できるようにした。収穫のタイミングと授業の日程がうまく合わなかったため、今年は昼やすみに収穫するなどの工夫をおこなった。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 植物資源学実験（1単位）3年生（担当コマ数4コマ）
② 内容・ねらい 芒をもつコムギと芒をもたないコムギとを交配して得たF2集団から抽出したDNAを用いて、芒の原因となる領域を遺伝学的にマッピングした。染色体ごとにDNAマーカーを設計して1個体ずつPCRを行い、芒原因となる染色体を決定した。次に当該染色体に複数のマーカーを設計してPCRを行い、原因領域を絞り込んだ。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 遺伝学Iで学んだ遺伝学的マッピングを復習した後、実際にPCRでマッピングを行うことで、学生の理解が深まった。1人1人のPCRの電気泳動結果を統合することで、原因遺伝子領域を狭めるという実験であったため、クラスの連帯感の醸成も行うことができた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 植物資源学演習（1単位）3年生（担当コマ数8コマ）
② 内容・ねらい DNAマーカーの種類や遺伝学的マッピングに関する様々な手法について理解を深める。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実験に即した内容に関する課題を与えることにより、実験との相乗効果を目指した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 専攻演習（4単位）4年生
②内容・ねらい（自由記述） 文献紹介および卒業論文研究検討会を行っている。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 文献紹介では、なるべく最新の論文を紹介できるように、web検索法なども合わせて指導している。1報の論文を全て読んで詳細に報告する方法と、面白い論文を選んでそのトピックを短く紹介する方法との、2通りで文献紹介を行う事で、英文読解能力と要点のプレゼンテーション能力の両方を高める工夫を行っている。卒業論文研究検討会では、事前に入念なチェックを行い、何度も学生に考える機会を与えるように工夫している。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業論文（8単位）4年生

②内容・ねらい（自由記述） 卒業論文研究の指導と卒業論文執筆の指導を行っている。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 卒業論文研究指導では、その研究の意義や位置付けが理解できるよう、種々の資料を紹介するようにしている。月に1回、研究室でプログレスミーティングを開催し、それぞれの研究のまとめと発表を行わせている。これによって、研究のモチベーションを維持することができ、また、他の人から有用なサジェスションが得られる。研究室の他の人の研究内容も知ることができ、研究室内で共同研究作業がスムーズに行われる。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 遺伝資源学（2単位） 博士前期課程（担当コマ数11コマ）
②内容・ねらい（自由記述） 植物資源の研究に深くかかわる「一歩進んだ遺伝学」を紹介した。具体的には、重イオンビームを用いた人工遺伝資源の開発、性染色体が関与する遺伝現象、核内三次元構造が関与する遺伝現象を解説した。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） バイオインフォマティクスの初心者と、中級者にクラスを分け、私は初心者を担当した。コマンドラインによるファイルの扱いを学んだあと、サーバーに接続して実際にRNAseq解析を行ってみる演習形式とした。また、新潟大学の岡田萌子助教、宮崎大学の平野智也准教授、農研機構の内藤健上級研究員にゲストスピーカーとして講演していただき、最新の遺伝資源を用いた研究について紹介していただいた。 【ゲストスピーカー 3名】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 植物資源学専攻演習（4単位） 博士前期課程
②内容・ねらい（自由記述） 文献紹介および修士論文研究検討会を行っている。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 文献紹介では、紹介する論文だけでなく、その分野全般についてのイントロダクションを加えるよう指導している。また、面白い論文を選んでそのトピックを短く紹介する演習も行い、要点を手短かにまとめて話す訓練も行っている。修士論文研究検討会では、4年生にも理解できるように、平易に解説するように指導している。他人に理解してもらう努力をすることが本人の理解につながる。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 植物資源学専攻実験（8単位） 博士前期課程
②内容・ねらい（自由記述） 修士論文実験の指導
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 修士論文研究指導では、その研究の意義や位置付けを理解させ、実験結果が原著論文になるように指導している。また、問題解決を学生自身で行うよう導いている。
(2)その他の教育活動
1) 週に1回、池田研と西嶋研と合同で研究室セミナーを開き、最新論文の報告会を行なっている。これによって、学生の研究発表に関する意識づけを行っている。相互の教員の意見も取り入れることができるので、独りよがりな指導を防ぐ効果もある。

2) 週に1回（原則、金曜日午前）に、池田研と西嶋研と合同で学生と一緒に実験室と研究室の掃除を行っている。これにより、整理整頓の大切さを教育している。また、全員で作業することにより、研究室員間のチームワークが深まる。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0 本】
②学術論文（査読あり）	
1. Mutation in <i>OPR3</i> ortholog affects stamen function but not petal size in <i>Torenia fournieri</i> (2025) Mayuzumi T, Morizumi S, Ikeda M, Matsunaga S, <u>Kazama Y</u>. <i>Cytologia</i>. 90: 187-194. 2. Internal ploidy and heritable chromosome fragmentation in <i>Parachlorella kessleri</i> (2025) Ishii K, Asano M, <u>Kazama Y</u>, Takashita T, Bisova K, Zachleder V, Toyoda A, Abe T, Kawano S*. <i>Algal Res.</i> 89: 104047. *3. Sex chromosome cycle as a mechanism of stable sex determination (2025) T Ikoma, Nishijima R, Ikeda M, Ishii K, Nagalla AD, Abe T, <u>Kazama Y *</u>. <i>Sci.Rep.</i> 15: 14284. *4. Identification of chromosomal region responsible for the phenotype of the novel torenia mutant <i>frilly petal undulation I</i> (2025) Mayuzumi T, Hatashita M, Takagi K, Ishii K, Abe T, <u>Kazama Y*</u>. <i>RIKEN. Accel. Prog. Rep.</i> 57: 188. *5. The role of the X chromosome in sex determination revealed by the identification of a sex-determining gene GSFY in <i>Silene latifolia</i> (2025) <u>Kazama Y*</u>, Kawano S. <i>Plant Morphol.</i> 37: 51-56.	
	【5 本】
① 学術論文（査読なし）	【0 本】
③ 学会発表等	
1. 西嶋遼, Jeffrey Fawcett, 坂本卓也, 鶴飼優葉, 杉田和陽, 兵渡友誉, 田中裕之, 伊藤武彦, 阿部知子, 松永幸大, <u>風間裕介</u>「染色体再編成が面白い」理研シンポジウム, 和光 2025 年 01 月（招待講演） 2. 池田康成, <u>風間裕介</u>, 池田佳澄「見てよし、食してよし、訪ねてよし」夏イチゴ・花イチゴ・夏スミレを大野、清水の新ブランドに！」大野市結のビジネスプランコンテスト, 大野 2025 年 03 月（優秀賞受賞） 3. 黛隆宏, 石井公太郎, 畑下昌範, 高城啓一, 小嶋美紀子, 竹林裕美子, 榊原均, 東山哲也, 阿部知子, <u>風間裕介</u> “Characterization of the frilled petal mutant in <i>Torenia fournieri</i> induced by heavy-ion-beam irradiation” 植物生理学会 66 回大会, 石川 2025 年 03 月 4. 小林壮生, 篠原秀文, 池田美穂, 西嶋遼, Dmitry A Filatov, <u>風間裕介</u> “Insights into dioecious evolution in <i>Silene latifolia</i> through functional analysis of two <i>CLV3</i> orthologs” 植物生理学会 66 回大会 石川 2025 年 03 月 5. 黛隆宏, <u>風間裕介</u> 「トレニア新規フリル変異体 <i>frilly petal undulationI</i> の作出と原因遺伝子の探索」学術変革 B シンポジウム, 宮城 2025 年 03 月 6. 鶴飼優葉, <u>風間裕介</u> 「シロイヌナズナ染色体部分重複変異体のエピゲノム変化」学術変革 B シンポジウム 宮城 2025 年 03 月 7. 落合詩月, <u>風間裕介</u> 「雌雄異株植物ヒロハノマンテマの X 染色体の性決定能の検証」学術変革 B シンポジウム, 宮城 2025 年 03 月 8. 小川馨乃子, <u>風間裕介</u> 「トレニアのネクターガイド欠損変異体 <i>nectar guideless I</i> の解析」	

学術変革 B シンポジウム, 宮城 2025 年 03 月

9. 小林壮生, 風間裕介「雌雄異株植物ヒロハノマンテマの X 染色体の雌ずい発達抑制能の検証」
学術変革 B シンポジウム, 宮城 2025 年 03 月

*10. 風間裕介「植物の異形性染色体に見出した性の消滅回避の兆候」日学術変革 B シンポジウム 宮城 2025 年 03 月

*11. 風間裕介「マンテマ属の性決定遺伝子 *GSFY* の分子進化で解く雌雄異株性の崩壊原理」学
変 A 領域会議, 東京 2025 年 5 月

12. 黛隆宏, 森住匠翔, 池田美穂, 松永幸大, 風間裕介「トレニアにおける *OPR3* オーソログ欠
損変異体の解析」日本メンデル協会第 2 回大会, 福井 2025 年 6 月

13. 小林壮生, 落合詩月, 風間裕介「倍数体ヒロハノマンテマを用いた X 染色体の性決定能の
解析」日本メンデル協会第 2 回大会, 福井 2025 年 6 月 (優秀発表賞受賞)

14. 兵渡友誉, 鵜飼優葉, 生駒拓也, 西嶋遼, 阿部知子, 風間裕介「重イオンビームで作出し
たシロイヌナズナ倍数化変異体の遺伝様式」日本メンデル協会第 2 回大会, 福井 2025
年 6 月

15. 鵜飼優葉, 西嶋遼, Jeffrey Fawcett, 坂本卓也, 生駒拓也, 杉田和陽, 兵渡友誉, 乾弥生,
田中裕之, 伊藤武彦, 阿部知子, 松永幸大, 風間裕介「間接免疫蛍光染色法を用いたシ
ロイヌナズナ染色体部分重複変異体のエピゲノム解析」日本メンデル協会第 2 回大会,
福井 2025 年 6 月

16. 江守祐汰郎, Alvin Sanjaya, 坂口実夢, 高城啓一, 風間裕介「 Ca^{2+} が植物の DNA 二本鎖
切断修復に与える影響」日本メンデル協会第 2 回大会, 福井 2025 年 6 月

17. 小川馨乃子, 黛隆宏, 小越咲子, 篠山治恵, 畑下昌範, 高城啓一, 阿部知子, 風間裕介「ト
レニアの蜜標欠損変異体を用いた訪花昆虫飛来頻度の測定」日本メンデル協会第 2 回大
会, 福井 2025 年 6 月

*18. 風間裕介「気候変動に強い野イチゴの改良で持続的なイチゴ供給」FUKUI
INTERDISCIPLINARY Fes, 福井, 2025 年 8 月 (優秀賞受賞)

19. 江守祐汰郎, Alvin Sanjaya, 坂口実夢, 高城啓一, 風間裕介「植物 DNA 二本鎖切断修復に
おける Ca イオンの影響」日本育種学会第 148 回大会, 北海道 2025 年 9 月

20. 黛隆宏, 石井公太郎, 畑下昌範, 高城啓一, 小嶋美紀子, 竹林裕美子, 榊原均, 東山哲也,
阿部知子, 風間裕介「トレニアのフリル変異体におけるサイトカイニンの含量および応
答性の変化」日本育種学会第 148 回大会, 北海道 2025 年 9 月

21. 小林壮生, 篠原秀文, 西嶋遼, 池田美穂, Dmitry A Filatov, 風間裕介「マンテマ属にお
ける植物性決定遺伝子 *GSFY* の保存と機能分化」日本遺伝学会第 98 回大会, 神戸 2025
年 9 月

22. 鵜飼優葉, 西嶋遼, Jeffrey Fawcett, 坂本卓也, 生駒拓也, 杉田和陽, 兵渡友誉, 乾弥生,
田中裕之, 伊藤武彦, 阿部知子, 松永幸大, 風間裕介「重イオンビームで作出した異数
化変異体の形態変化およびエピゲノム変化」日本遺伝学会第 97 回大会, 兵庫 2025 年 9
月

23. 小林壮生, 篠原秀文, 池田美穂, 西嶋 遼, Dmitry A Filatov, 風間裕介「マンテマ属にお
ける性決定遺伝子 *GSFY* オーソログの進化」日本植物形態学会第 37 回大会, 福岡 2025
年 9 月

24. 黛隆宏, 石井公太郎, 畑下昌範, 高城啓一, 小嶋美紀子, 竹林裕美子, 榊原均, 東山哲也,
阿部知子, 風間裕介「トレニアフリル変異体の花弁形態の変化および植物ホルモン内生
量の変動」日本植物形態学会第 37 回大会, 福岡 2025 年 9 月

25. 小川馨乃子, 黛隆宏, 小越咲子, 篠山治恵, 畑下昌範, 高城啓一, 阿部知子, 風間裕介「重

イオンビームで作出したトレニアの蜜標欠損変異体 *nectar guideless 1* の解析」日本植物形態学会第 37 回大会，福岡 2025 年 9 月

26. 小川馨乃子，黛隆宏，小越咲子，篠山治恵，畑下昌範，高城啓一，阿部知子，風間裕介「トレニアの蜜標欠損変異体を用いた蜜標の形態と機能の解析」日本植物学会第 89 回大会，福岡 2025 年 9 月
27. 黛隆宏，石井公太郎，畑下昌範，高城啓一，小嶋美紀子，竹林裕美子，榊原均，東山哲也，阿部知子，風間裕介「トレニアフリル変異体で見られたサイトカイニン感受性の増大」日本植物学会第 89 回大会，福岡 2025 年 9 月
28. 小林壮生，落合詩月，風間裕介「ヒロハノマンテマの倍数化が性表現型に与える影響」日本植物学会第 89 回大会，福岡 2025 年 9 月
29. 小林壮生，篠原秀文，池田美穂，西嶋 遼，Dmitry A Filatov，風間裕介「雌雄異株植物ヒロハノマンテマの X 染色体はメス化を促進する」NIG-JOINT 研究会「染色体構成と核型からみるゲノムの多様性とその理解」，静岡 2025 年 9 月
30. 兵渡友誉，西嶋遼，Jeffrey Fawcett，門田満隆，工樂樹洋，風間裕介「シロイヌナズナの発達ステージに依存したセントロメア構造の変化」NIG-JOINT 研究会「染色体構成と核型からみるゲノムの多様性とその理解」，静岡 2025 年 9 月
31. 鵜飼優葉，西嶋遼，Jeffrey Fawcett，坂本卓也，生駒拓也，杉田和陽，兵渡友誉，乾弥生，田中裕之，伊藤武彦，阿部知子，松永幸大，風間裕介「重イオンビームで作出したシロイヌナズナ染色体部分重複変異体のエピゲノム変化」NIG-JOINT 研究会「染色体構成と核型からみるゲノムの多様性とその理解」，静岡 2025 年 9 月
- *32. 風間裕介，西嶋遼，Jeffrey Fawcett，坂本卓也，鵜飼優葉，生駒拓也，杉田和陽，兵渡友誉，乾弥生，田中裕之，伊藤武彦，松永幸大，阿部知子「重イオンビームを用いた染色体再編成の研究」NIG-JOINT 研究会「染色体構成と核型からみるゲノムの多様性とその理解」，静岡 2025 年 9 月（招待講演）
33. 小林壮生，風間裕介「マンテマ属の性決定遺伝子 *GSFY* の進化と雌雄異株化」挑戦的両性花原理若手の会 2025，静岡 2025 年 10 月
34. 黛隆宏，風間裕介「トレニア変異体 *frilly petal unduration1* の単離と原因遺伝子の探索」挑戦的両性花原理若手の会 2025，静岡 2025 年 10 月
35. 黛隆宏，石井公太郎，畑下昌範，高城 啓一，小嶋美紀子，竹林裕美子，榊原均，東山哲也，阿部知子，風間裕介「フリル状の花弁をもつトレニア変異体 *frilly petal unduration1* の形態変化と原因遺伝子の探索」北陸植物学会第 15 回大会，石川 2025 年 11 月
36. 小林壮生，篠原秀文，池田美穂，西嶋遼，Dmitry A Filatov，風間裕介「雌雄異株植物ヒロハノマンテマの性決定遺伝子 *GSFY* オーソログの進化」北陸植物学会第 15 回大会，石川 2025 年 11 月
37. 江守祐汰郎，Alvin Sanjaya，坂口実夢，高城啓一，風間裕介「 Ca^{2+} は植物の DNA 二本鎖切断修復に必要である」北陸植物学会第 15 回大会，石川 2025 年 11 月
- *38. 風間裕介「重イオンビームによる植物への染色体再編成の誘発とその影響」染色体学会第 76 回年会，大阪 2025 年 11 月（招待講演）
39. 江守祐汰郎，風間裕介「 Ca^{2+} が植物の DNA 二本鎖切断修復に与える影響」学術変革 B フォローアップシンポジウム 東京 2025 年 12 月
40. 落合詩月，風間裕介「接触刺激応答プロモーターの同定と花色改変への応用学術変革 B フォローアップシンポジウム 東京 2025 年 12 月
41. 黛隆宏，石井公太郎，畑下昌範，高城啓一，小嶋美紀子，竹林裕美子，榊原均，東山哲也，阿部知子，風間裕介「トレニアフリル変異体の花弁形態の変化および植物ホルモン内生

量の変動」学術変革Bフォローアップシンポジウム 東京 2025年12月 42. 小林壮生, 風間裕介「性染色体サイクルの起点を探る: ヒロハノマンテマの性決定遺伝子の誕生」学術変革Bフォローアップシンポジウム 東京 2025年12月 *43. 風間裕介「雌雄異株植物における性染色体サイクルの理解に向けて: ヒロハノマンテマをモデルとして」学術変革Bフォローアップシンポジウム 東京 2025年12月 *44. 風間裕介「ヒロハノマンテマの性決定遺伝子GSFYの起源と機能分化」東京大学第1531回生物科学セミナー 東京 2025年12月(招待講演)		【44件】
⑤その他の公表実績 1. 「植物の遺伝子働き半減」福井新聞, 1面, 2025年6月26日 2. 「野いちご商品化へ栽培」福井新聞, 16面, 2025年7月19日 3. 「地元由来野いちごを名産に」日経新聞, 16面, 2025年7月31日		【3件】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績		
【学外】		
1. 文部科学省 科学研究費補助金学術変革(A)公募研究 課題番号: 25H01829 (2025~2026年度)「マンテマ属の性決定遺伝子GSFYの分子進化で解く雌雄異株性の崩壊原理」、研究代表者、11,180千円 2. 文部科学省 科学研究費補助金国際共同研究加速基金(B) 課題番号: 21KK0128 (2021年~2025年度)「植物性染色体の誕生と性決定システムの進化を解明する日英共同研究」、研究代表者、18,590千円 3. FAA 学ぶなら福井! 応援事業(PBL・共同研究)、(2025年度)「福井発! 新しい夏いちごの発掘」、研究代表者、300千円		
【学内】		
1. 戦略的課題研究推進支援 (2024~2025年度)「植物のゲノム編集及び変異誘発の効率を向上させる新技術の開発」、研究代表者、1,800千円		
(3)特許等取得		
		【0件】
(4)学会活動等		
【学会活動】		
1. 日本メンデル協会 CYTOLOGIA 編集長 2025年度から 2. 日本メンデル協会理事 2025年度から 3. 日本メンデル協会第2回大会会長 2025年度		
【受賞】		
1. 第1回大野市結のビジネスプランコンテスト優秀賞、「『見てよし、食してよし、訪ねてよし』夏イチゴ・花イチゴ・夏スマレを大野、清水の新ブランドに!」池田康成, 風間裕介, 池田佳澄, 2025年3月 2. FUKUI INTERDISCIPLINARY Fes. シーズピッチ優秀賞「気候変動に強い野イチゴの改良で持続的なイチゴ供給」風間裕介, 2025年8月		

5. 地域・社会貢献活動

1. 県立高志中学校 研究内容紹介 「染色体研究で世界で1つだけの花を創る」 2025 年 3 月 7 日
2. 解放講義「染色体研究で世界で1つだけの花を創る」 羽水高校 7月11日
3. 福井プレカレッジ「世界で1つだけの花を作る現場を覗いてみよう」2025年7月13日
4. 公開講座、生物資源学オープンカレッジ「大学の講義と実験を体験しよう！」2025年8月4日
5. 県立勝山高校 リレー講義 2024年9月16日
6. 福井プレカレッジ「花びらの色のひみつを探れ！細胞の中をのぞいてみよう！」2025年11月16日
7. 福井大学教育地域科学部附属義務教育学校 後期課程 夢講座「大学教授になろう！ 主体性を武器に、まだ誰も知らない世界へ」2025年11月18日
8. 永平寺特産ネギの開発に関する相談会、2025年12月17日
9. 理化学研究所 仁科加速器科学研究センターイオン育種研究開発室 客員研究員 2019年度～現在に至る

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・ 入試制度検討委員 2025 年度～ ・ 入試 WG 委員長 2025 年度～ ・ JABEE 準備メンバー 2025 年度～
(3)学内行事への参加
・ 新入生歓迎会 BBQ 2025 年 5 月 16 日 ・ 入試説明会 鯖江高校 2025 年 7 月 24 日 ・ 高校理科教員との親睦会 7 月 29 日 ・ 入試説明会 福井高校 8 月 1 日 ・ オープンキャンパス 8 月 3 日
(4)その他、自発的活動など
・ 生物資源学部生物資源学科 X 共同担当 2021 年度～ ・ 先端セミナー「植物のクロマチン動態制御メカニズムとエピジェネティック・プライミング」松永 幸大, 6 月 13 日 ・ 先端セミナー「U ゲノムを軸にしたコムギ野生種の異質倍数性進化研究」岡田萌子, 12 月 15 日 ・ 先端セミナー “Adsuki: The Bean of Japan” 内藤健, 12 月 18 日